

自ら学習を調整し、自分の願いや思いを 創造的に表そうとする児童の育成

—ICT 端末を用いたポートフォリオの作成と活用を通して—

特別研修員 図画工作 亀井 章央 (小学校教諭)

児童の実態

前時までに学んだことを本時の学習に生かすことができず、自分が表したいことに向けて見通しをもって活動することができない児童が多い。

教師の思い

自分が表したいことに向けて、本時の学習を次時の学習へつなげ、工夫をし続けて学習に取り組み、創造的に表現できるようになって欲しい。

単位時間の中で

●●●●● 表したいことに向かって自分なりの工夫をして活動できる

ICT 端末を用いた ポートフォリオの 作成と活用の手立て

今日は、材料集めをしました。
途中で2つに分けるための木材
を集めました。
穴に通す紙コップを集めました

抽出児の ICT 端末を用いた
ポートフォリオ

次時へ

手立て① 導入

今までのポートフォリオを
見て自分なりに工夫したい
ところを考える時間を設定する



材料を見に行くの
ではなく、前時の絵コ
ンテを見て何が必要
か考えている



前時の絵コンテを見て、材料
集めをし始めた

手立て③ 振り返り

自分なりに工夫したところを文章、
画像、動画を自由に組み合わせ
てポートフォリオに記入する時間を
設定する



今日工夫した
ところを文章で
まとめている



二手に分かれる動きを作る
ためにカッターを使って紙
皿に穴を開けている

手立て② 展開

必要に応じていつでも
ポートフォリオを
見られるようにする



絵コンテの
二手に分かれる
動きを実現しよ
うとしている

題材の中で

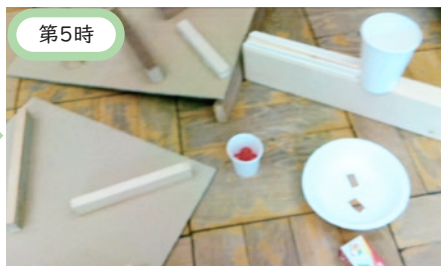
●●●●● 繰り返していくことで、表したいことに向けてより工夫できる

第4時(次時)



集めた材料を組み合わせて製作し始めた

第5時



ビー玉が交互に落ちる仕組みを製作し始めた

第7時



自分が表したい動きを実現した連鎖装置が完成した

成果

ICT 端末を用いたポートフォリオで、前時までの振り返りを見て、本時の学習の見通しをもつ児童が増えた。そのことによって、本時で表したいことや工夫したいことが明確になり、表したいことに向けてより自分なりの工夫をすることができるようになった。

課題

ICT 端末は、作業中のスペースを多く取ってしまい、活動を制限してしまうため、端末入力のための環境を考慮していく必要がある。